



移乗介助支援ロボットを活用し、 職員の腰痛予防とケアの質の向上を目指して

【施設名】医療法人健栄会
介護老人保健施設フルール甲府
【発表者名】杉田遼





HEALTHCARE
Implementation

1. 施設の概要



施設名：フルロール甲府

施設種別：介護老人保健施設（短期入所・デイケア・訪問リハ・福祉用具貸与）

所在地：〒400-0055 山梨県甲府市大津町1509-1

定員：90名

職員数：70名

施設内容：ユニット型個室50室、2人部屋4室、4人部屋8室（90室）

フルリール甲府の目指すもの

Mission

ご自宅や地域での生活の再開を目指し、
総合的に生活を支援する
—— 住み慣れた地域でいつまでも、最後まで ——



今回のモデル事業に手上げについて

- 職員の高齢化に伴い、車いす⇔ベッド・車いす⇔トイレなどの移乗介助が業務負担となっている
- 移乗による介助負担から職員の腰痛者も増え、休職や離職の一因となっている
- 複数人で移乗介助する場面も多く、業務に支障をきたしている
- 職員の移乗介助スキルに差があり、職員・利用者ともに不安を抱いている（移乗介助場面におけるヒヤリ・事故が散見される）
- 外線電話の取次業務における人探し作業や情報共有・ヘルプ要求などがフロアの構造上から業務圧迫を感じている
- 介護ソフトの使用できるPCの台数が限られているため、早い者勝ち状態になっており、順番が空くまで介護記録や書類業務が行えない（紙ベースでの処理も多い）



HEALTHCARE
Implementation

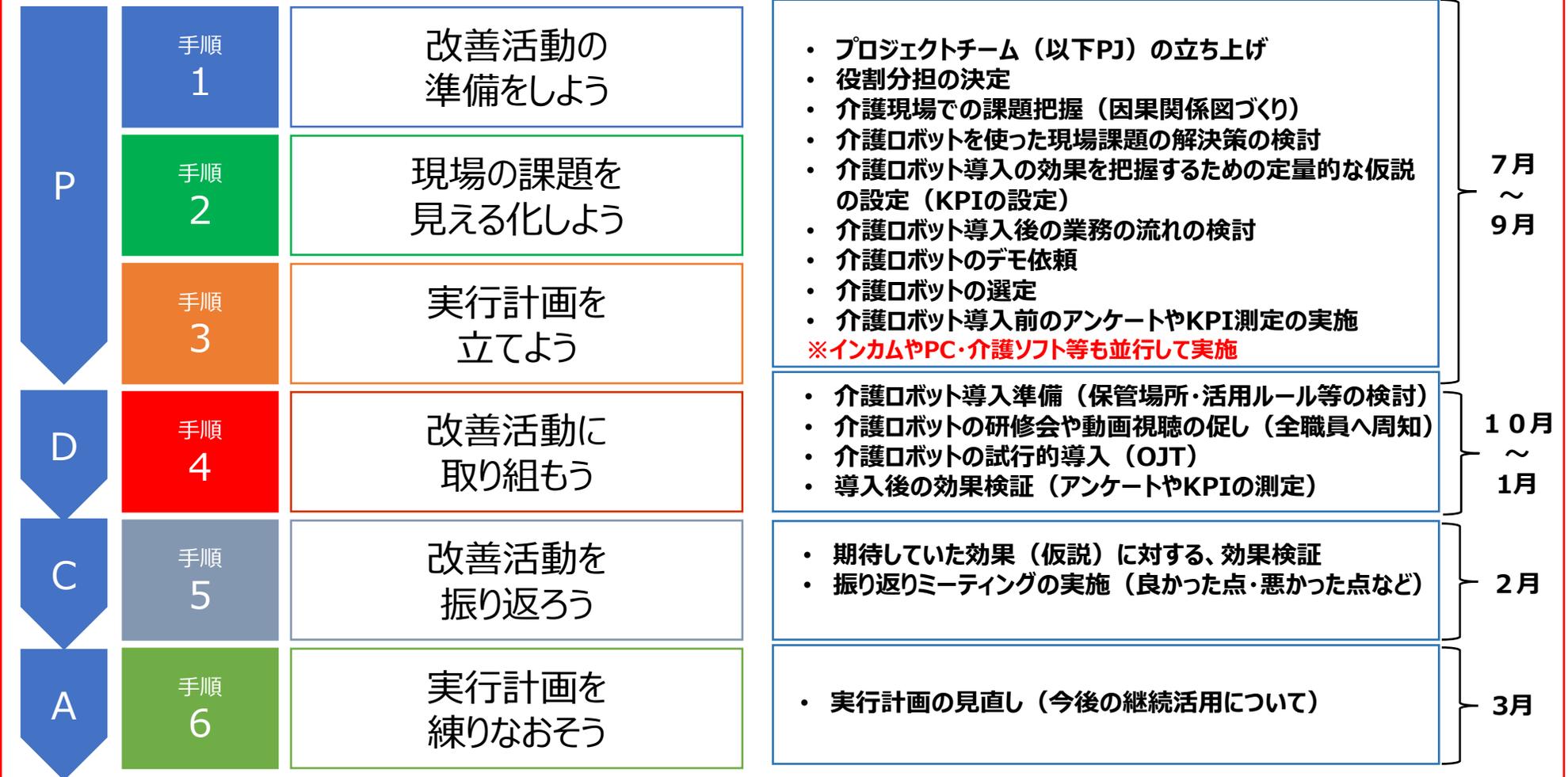
2. 取り組みの流れ



取り組み全体の流れ

パッケージモデル

プロジェクトの流れ



手順 1 改善活動の準備をしよう

プロジェクトメンバー名	役職	所属	プロジェクト上の役割
1	2Fリーダー	2Fフロア	プロジェクトリーダー
2	リハ主任	リハビリ	プロジェクトリーダー補佐・研修担当
3	リハ科サラーダー	リハビリ	研修担当
4	看護師	看護科	リスク検討担当
5	介護士	介護科	マニュアル担当・運用ルール担当
6	2F多床サブリーダー	介護科	マニュアル担当・運用ルール担当
7	3Fサラーダー	介護科	マニュアル担当・運用ルール担当
8	3Fサラーダー	介護科	マニュアル担当・運用ルール担当
9	事務主任	事務所	事務担当
10	統括マネージャー	法人本部	調査担当・技術担当



①実施体制の整備（PJメンバーの選定）

⇒職種に偏りや負担がかからないように各部署より万遍なく選出
PJにおける役割の明確化

②目標設定

⇒介護ロボットを導入してテクノロジーを活用した業務改善・運用ノウハウを構築し、施設ブランディングを図り、職員の腰痛予防やご利用者様の満足度の向上、稼働率の維持を実現する



改善活動の準備（情報収集、組織全体での合意形成、実施体制の整備） で苦労した点・工夫した点



【改善活動の準備における課題】

- ①通常業務との兼務で話し合いに時間を割きづらい
 - ②勤務の都合上、ミーティングPJメンバーが毎回全員参加が困難
 - ③PJにおけるスピード感や熱量を維持できない
- ⇒隔週で短時間ミーティングの実施、PJメンバー間での情報共有にChatworkを活用し対応した

手順2 現場の課題を見える化しよう

■気づきシート

サービス種別: _____ 氏名: _____ 職位: _____

日ごろの業務を行っている際に感じた 問題点について、自由に記述してください。
1シートに1つの「気づき」を記載してください。

いつ(タイミング)? どこでどの場面で?

何を?どんな気づき?
(人間関係、マネジメント、介護技術、人手不足など)
(必要ならば、絵など入れる。写真の別添も歓迎)

分類カテゴリ

S (安全)	<input type="checkbox"/>
C (法令遵守)	<input type="checkbox"/>
Q (品質)	<input type="checkbox"/>
E (効率)	<input type="checkbox"/>
D (納期)	<input type="checkbox"/>
F (柔軟性)	<input type="checkbox"/>
ムリ	<input type="checkbox"/>
ムダ	<input type="checkbox"/>
ムラ	<input type="checkbox"/>
非該当	<input type="checkbox"/>

©2022 山梨県テクノロジーを活用した業務効率化モデル事業

『気づきシート』を活用し、全職員を対象に現状の施設内業務の問題点を抽出

⇒様々な業務上の課題が挙がる

気づきシートで挙げた課題をまとめつつ、見える化にむけてPJメンバーで共有を図る



- 気づきシートで挙げた課題を『移乗』『支援体制』『情報共有（伝達）』『記録』の4つのグループにカテゴリー分けを行う
- 課題を『原因→結果→悪影響』のループをベースに因果関係図の作成し、課題の焦点化

当施設では、移乗時の転倒・転落事故に繋がりがねない場面が多いこと
が原因で、ひやりや事故・入院件数が増えているという問題が発生しており、
その結果入所の稼働率や利用者満足度の低下という影響が出ている。
これは職員の介護スキルにムラがあることが主な要因であると考えられる。

課題解決の道筋の文章化

深堀原因

職員の介護スキルにムラがあることに対し、

介護ロボットの
種類

移乗介助を支援する介護ロボットを導入することにより

好転換された
深堀要因

職員の介護スキルのムラが減ることとなり、

原因

移乗時におけるひやりや事故リスクが高いという問題が解消・軽減され

結果

ひやりや事故・入院件数の増加がなくなり、

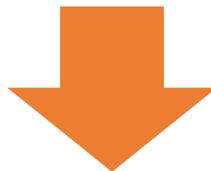
悪影響

入所の稼働率や利用者の満足度の改善が期待できる。

手順3 実行計画を立てよう（課題の明確化と対応策）

【課題】

職員の介護スキルにムラがあることで、移乗時におけるひやりや事故リスクが高い
（また、職員の腰痛増悪や複数人で介助することもあり業務に支障をきたしている）



移乗介助支援ロボットの導入検討！
（利用者の介助レベルや生活での使用場面を考慮し、全フロアに導入）

手順3 実行計画を立てよう（KPIの設定）

KPIを設定する文節	設定したKPI	KPIの測定方法	KPIの測定ピッチ
移乗介助等の介護スキルのムラを無くす	1人介助で移乗が困難な利用者の数	1人介助で離床が困難であった利用者を移乗できた人数の集計	機器導入前・後の2回
職員の心理的・身体的不安の軽減	移乗時の心理的・身体的な不安の度合い	アンケート	機器導入前・後の2回
ひやりや事故件数の軽減	ひやり・事故の件数	ひやり・事故の件数の統計	毎月
CSの低下や入院に伴う利用率低下を抑える	移乗時の転倒・転落が原因の事故・入院件数	入院利用者数を毎月集計する	毎月

【KPI（成果指標）の期間】
導入前：2023.10～11
導入後：2023～2024.12～1 に設定

手順3 実行計画を立てよう（機器の選定）

- ①利用者の移乗レベルの設定を行い、機器を一定数へ絞る
 （中度介助⇒スタンディングリフト・重度介助⇒つり上げ式リフト）
- ②運搬や安全性、操作性、場面設定を比較項目とし、機器選定を行う

比較項目	移乗機器 1-A	移乗機器 1-B	移乗機器 2-A	移乗機器 2-B	移乗機器 2-C
運搬性	○	△	×	×	○
1介助の可否	○	△	△	△	○
入浴時の可否	○	△	×	△	△
安全性	△	○	△	△	○
操作性	○	△	○	△	○



移乗介助支援ロボットのデモ時の様子（スタンディングリフト）



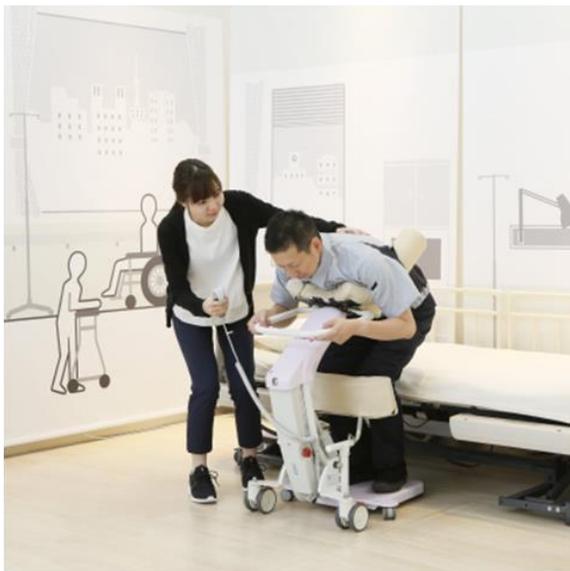


移乗介助支援ロボットのデモ時の様子（つり上げ式リフト）



選定された移乗介助支援ロボット

中度介助



【Hug】

- ・スリング不要でコンパクトなスタンディングリフト
- ・簡単操作でトイレや車いす等への移乗サポートが可能

重度介助



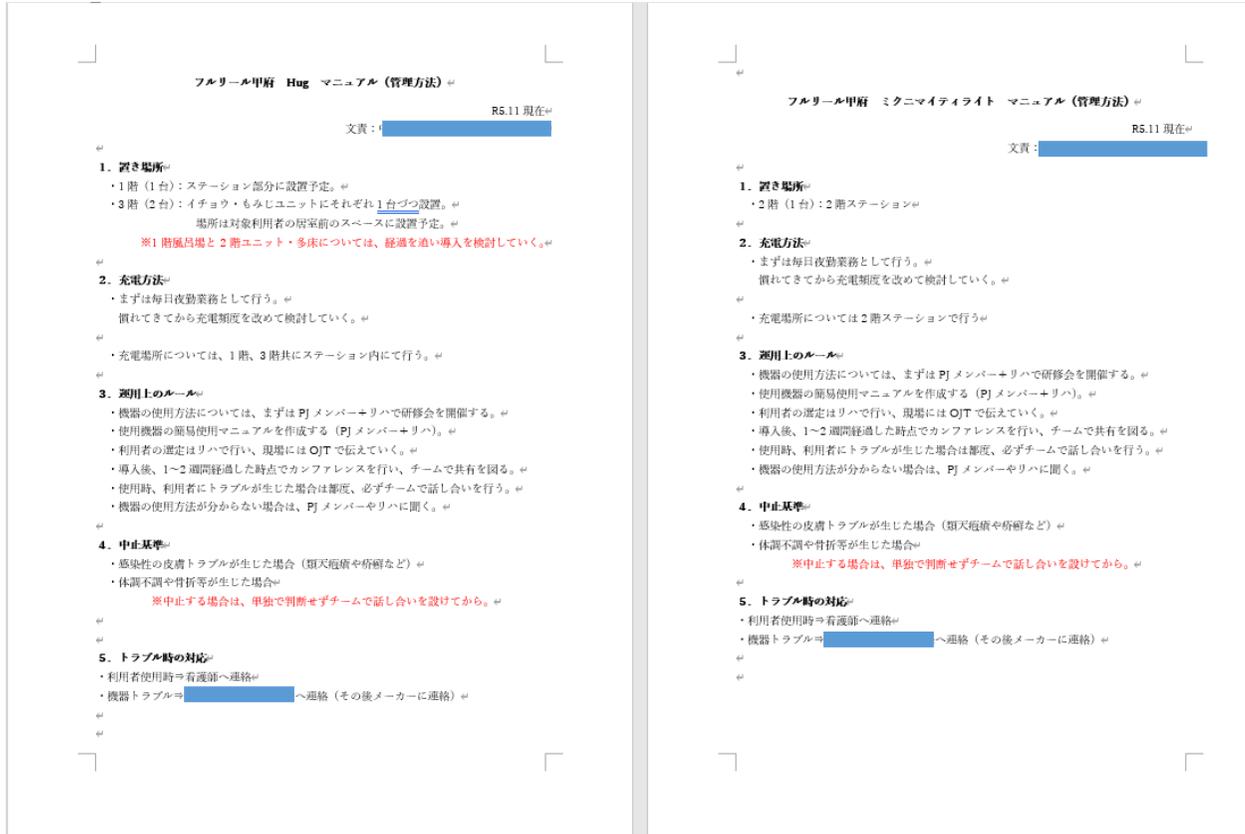
【ミクニマイティライトⅢ】

- ・狭い場所でも楽に取り回しができ、低床ベッドでも使用可能
- ・操作性を重視し、1台でベッド・トイレ・脱衣所等さまざまなシーンで利用可能



手順4 改善活動に取り組もう

①介護ロボット導入の準備（マニュアル整備）



Hug・ミクニマイティライトⅢにおけるマニュアルの整備の実施
(置き場所や充電方法・運用上のルール・中止基準・トラブル時の対応などを明確化)

手順4 改善活動に取り組もう

①介護ロボット導入の準備（動画視聴や使用説明会の開催）

ICT プロジェクト移乗機器 説明動画

RS.11.13

●12月中旬にICTプロジェクトにおける移乗機器を現場に導入していきますので、11月中旬に①Hug（ハグ）②ミクニマイティライトⅢ（リフター）の説明動画を各自必ず視聴して下さい。その後、各機器の説明会や体験を行い、現場に下していきますのでご了承ください。
※各動画最大で3分程度です

1.Hug（ハグ）説明動画



【Hug使用動画①】



【Hug使用動画②】

2.ミクニマイティライトⅢ説明動画



【リフトの移動方法】



【ベッド上でのシート装着】



【椅子上でのシート装着】



【椅子⇒ベッド】



【ベッド⇒椅子】



【椅子への着座①】



【椅子への着座②】



【椅子への着座③】

文責：



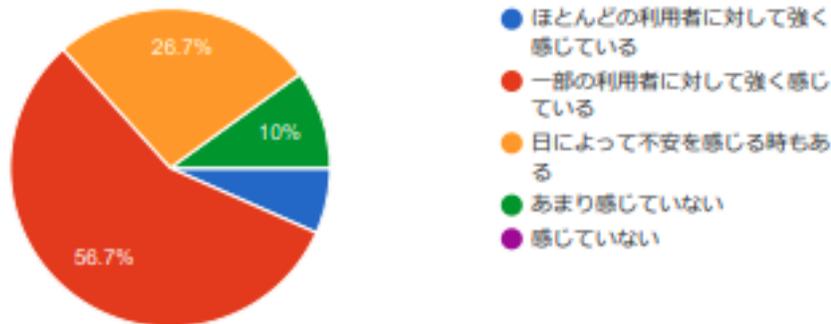
- 説明会前にHug・ミクニマイティライトⅢの動画視聴をして頂く
- セラピストによるHug・ミクニマイティライトⅢの使用説明会を全職員対象に実施（基本操作方法やリスクを伝達）

手順4 改善活動に取り組もう

①介護ロボット導入の準備（アンケート）

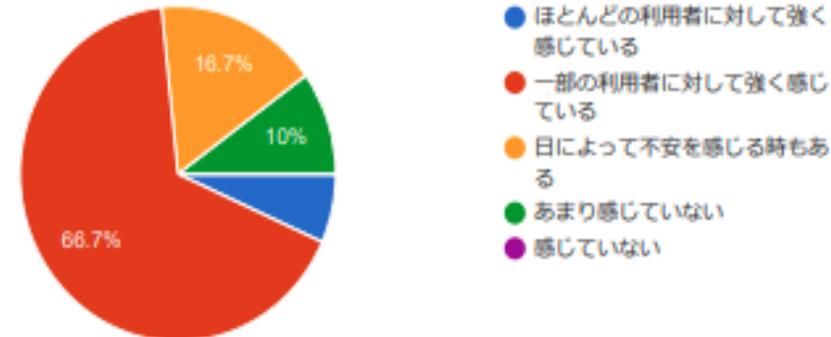
利用者を移乗介助する際に心理的に不安を感じていますか？

30件の回答



利用者を移乗介助する際に身体的に負担を感じていますか？

30件の回答



Beforeデータでは職員が**心理的には64%、身体的には74%**の不安を感じている
(半分以上の職員が心身的に不安を感じていることが分かった)

手順4 改善活動に取り組もう

①介護ロボット導入の準備（件数の把握）

KPI beforeデータの測定（期間：2023.10～11）

KPIの項目	件数
移乗動作時のひやり・はっと件数	9件
移乗動作時の事故（転倒・転落）件数	2件
移乗動作時の事故に伴う入院件数	1件
2人介助で移乗を行っている利用者数	10名



手順4 改善活動に取り組もう

①介護ロボット導入の準備（リスクの洗い出しと対応策の検討）

【リスクの洗い出しとリスク評価】											
	想定される具体的なリスク	リスクが起こり得る場面	A.リスクが起こり得る頻度 (毎日:30日、週:4日、月:1回:1日)	B.リスクの発生度 [5段階評価]	リスク発生 [4=0]	リスクに対する対応策	C.対応策で軽減されるリスクの頻度 (毎日:30日、週:4日、月:1回:1日)	D.対応策で軽減されるリスクの発生度 [5段階評価]	リスク発生 [C=0]	評価結果 [0=100]	
	Hug	タブレットの電源切れ	タブレット使用中	30	4	120	・充電ケーブルを定める ・予備のタブレットを用意しておく	4	4	16	30
1		機器の充電の電池切れがなっていた	機器の使用時	30	2	60	充電のルールを決める (設充電をする)	30	1	30	30
2		機器が仕様にあわぬ利用者がい	大柄・小柄な利用者への使用時	30	3	90	Hug導入前に多職種で評価する、使用方の確認 (協議・マニュアル化)	30	2	60	30
3		タブレットが合わないと転倒や転落するリスクあり	機器の使用時	30	5	150	Hug導入前に多職種で評価する、使用方の確認 (協議・マニュアル化)	30	2	60	30
4		車椅子によっては足が入らない場合もある	機器の使用時	30	5	150	Hug導入前に多職種で評価する、使用方の確認 (協議・マニュアル化)	30	3	90	20
5		入浴準備が済んでいる場合の対応しづらさ(転倒・転落のリスク)	入浴の際の使用時	4	5	20	Hug導入前に多職種で評価する、使用方の確認 (協議・マニュアル化)	4	2	8	20
6		障害の重症の可能性	機器の使用時	30	3	90	Hug導入前に多職種で評価する、使用方の確認 (協議・マニュアル化)	30	2	60	30
7		障害のアクション確認時に目を離すと転倒・転落のリスクあり	機器の使用時	30	5	150	Hug導入前に多職種で評価する、使用方の確認 (協議・マニュアル化)	30	2	60	30
8						0				0	30
9		機器の充電の電池切れがなっていた	機器の使用時	30	2	60	充電のルールを決める (設充電をする)	30	1	30	30
10		角い部分が鋭いため、利用者にあたる可能性がある	機器の使用時	30	5	150	リフト導入前に多職種で評価する、使用方の確認 (協議・マニュアル化)	30	3	90	30
11		車椅子へ乗降者を下す際に転倒・転落するリスクがある	機器の使用時	30	5	150	リフト導入前に多職種で評価する、使用方の確認 (協議・マニュアル化)	30	3	90	30
12		スリッパを脱ぐ際に転倒・転落するリスクがある (奥投棄禁止)	機器の使用時	30	5	150	リフト導入前に多職種で評価する、使用方の確認 (協議・マニュアル化)	30	3	90	30
13		車椅子からリフトを降下する際のフックに足が当たる恐れがある	機器の使用時	30	5	150	リフト導入前に多職種で評価する、使用方の確認 (協議・マニュアル化)	30	3	90	30
14		スリッパのつっかけを履き替える際の踏みかたや転倒につながるリスクあり(リフトの足は戻さない)	機器の使用時	30	5	150	リフト導入前に多職種で評価する、使用方の確認 (協議・マニュアル化)	30	3	90	20
15		つり上げでの搬送時に障害物にあたる可能性がある	機器の使用時	30	4	120	施設の環境整備	30	2	60	20
16		充電をコンセントを抜き取られて使用すると断電の恐れあり	機器の使用時	30	3	90	使用時にコンセントの抜き取れの確認を徹底する	2	2	60	20

Hug

ミクニ
マイティライトⅢ

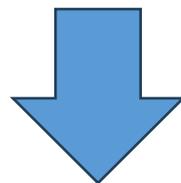
HugとミクニマイティライトⅢにおけるリスクの洗い出しと対応策の検討

①想定されるリスクや場面・頻度・重要度を挙げ、リスク評価と対応策を挙げる

②上記の対応策に対し、再度リスクの洗い出しを行い、現場導入の可否を行う

導入までに苦労した点・工夫した点

導入前の移乗介助支援ロボットのイメージ



手間や時間がかかる、操作が大変、取り回しが大変など

- 全職員を対象に研修会開催前にHugやリフトの動画視聴をしてもらう
- 全職員を対象にHugやリフトの使用説明会を行う（なるべく体験してもらう）

⇒動画視聴や使用説明会での体験を通し、『これなら使えそう』『やってみると楽だね』などの声が聞かれ、移乗介助支援ロボットに対する大変なイメージの軽減が図れた！

● **小さな成功事例の共有**

⇒利用者ごとリハスタッフを中心にOJTの実施

● **簡易マニュアルの作成**

⇒使用時に困らないよう機器ごとに簡易マニュアルの作成

小さな成功事例の共有



リハスタッフを中心に利用者ごとにOJTを実施
その後、各フロアのPJメンバーを中心に生活場面でのOJTもその都度実施
⇒各利用者ごと細かくリスクやポイントを伝え、事例を通し成功体験を積ませる
(成功体験を重ねることで自信を持って頂く)

本格的導入に向けたマニュアル作り

フルリアル甲府 Hug 運用マニュアル

R5.11.27 現在

文責：中込常務・ヲハ主任杉田・OT 千葉

【使用する前に】

- 必ず説明的動画と事前に視聴して下さい。
- 動画視聴後、ヲハスタッフ又はPJメンバーに使用説明（実技研修）を受けてから利用者で使用して下さい。

＜リフトが着席＞

- ①ご利用者様にしつかりと座位をとって頂く。
- ②足元に足をしっかりと置き、キャスターをロックする。
- ③履物がしっかりと靴パッドについている確認する。

④Hug 前方にある手すりにつかまって頂き前傾姿勢を促す。
※履物をしっかりと履き入れる。

⑤利用者様の体高に合わせて履パッドの高さを調整を行う（履の少し下あたり）。
※リモコンの調整を使用し調整する。

⑥利用者様に声をかけし、立ち上げる。
※リモコンの立ち上げを使用する。

フルリアル甲府 リフト（ミニマイティライトⅢ） 運用マニュアル

R5.11.27 現在

文責：中込常務・ヲハ主任杉田・OT 千葉

【使用する前に】

- 必ず説明的動画と事前に視聴して下さい。
- 動画視聴後、ヲハスタッフ又はPJメンバーに使用説明（実技研修）を受けてから利用者で使用して下さい。

＜ベッドでの装着時＞

- ①オムツ交換の要領で側臥位となり、スリングシートを身体の下に敷きこむ。
※このシートは容易のように頭部分を握るように敷く、その後、頭部・足部をキャッチアップする。

- ②スリングシートを動き終わったら、ご利用者様に機器を注げる（リフトの足は閉じておく）。
- ③スリングシートの尾部ストラップを大腿の下を通し、ストラップを交差させリフトハンガーに取り付ける。
ストラップを交差させる！

- ④スリングシートの体部のストラップはそのままリフトハンガーに取り付ける。
- ⑤リフト部分がご利用者の顔等に当たらない様に注意しながら持ち上げる。
ハンガーに取り付ける際はストラップの色に注意！

Hugとリフトの簡易使用マニュアルの作成

⇒どの職種でも使用時に困らない様、場面ごとに操作ポイントやリスクを記載

●小さな成功事例の共有

⇒介護や看護師の不規則な勤務体制かつ利用者ごとのOJTには時間を要す（またリハスタッフも単位取得業務に追われる）。そのため、**まずは個別リハビリ時にOJTも兼ねて機器指導を行い、その後各フロアのPJメンバーを中心に生活場面にてその都度OJTを行って頂くことで、上記の課題軽減や小さな成功体験の積み重ねとなり、機器使用における自信がついた！**

●本格的導入に向けた簡易マニュアルづくり

⇒いざ一人で使用すると不安…。マニュアルも情報量が多い（文字だけ）と読みたくない、頭に入らない…。そのため、**各場面での写真を入れつつ、ポイントを絞り、簡潔かつ分かり易くまとめた！**

しかし、想定外のトラブルが…

コロナ感染



クラスター発生（12月～1月）



1か月ほど感染対策にて個室対応となり、機器の使用中止



利用者の機能低下が進む…（オムツ着用者増加）



感染状況をみつつ、自立支援を目的に再度使用開始！





HEALTHCARE
Implementation

導入の成果

導入の成果（アンケート）

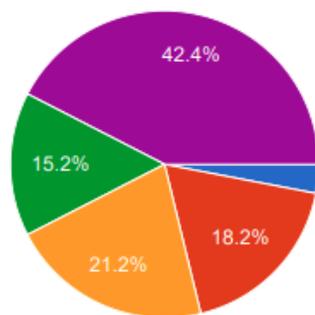
利用者を移乗介助する際に**心理的**に不安を感じていますか？



利用者を移乗介助する際に**身体的**に負担を感じていますか？

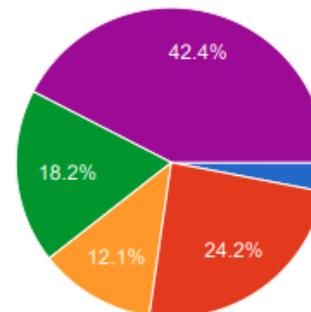


33 件の回答



- ほとんどの利用者に対して強く感じている
- 一部の利用者に対して強く感じている
- 日によって不安を感じる時もある
- あまり感じていない
- 感じていない

33 件の回答



- ほとんどの利用者に対して強く感じている
- 一部の利用者に対して強く感じている
- 日によって不安を感じる時もある
- あまり感じていない
- 感じていない

Afterデータでは職員が**心理的には64%→22%**、**身体的には74%→28%**の不安を感じている
⇒日による不安は若干あるものの、明らかな不安軽減を図れた！

導入の成果（KPI）

KPI Afterデータの測定（期間：2023.12～2023.2）
※コロナクラスター期間を加味し、使用期間を延長

KPIの項目	件数
移乗動作時のひやり・はっと件数	9件→1件
移乗動作時の事故（転倒・転落）件数	2件→0件
移乗動作時の事故に伴う入院件数	1件→0件
2人介助で移乗を行っている利用者数	10名→0名

※ひやり・はっと：Hug使用時の着座の際、利用者が持ち手から手を放してしまい、体が抜けそうになったのを支えた

【Hug導入によりオムツからリハパンとなり、トイレ誘導へ…】

●導入前（オムツを使用している利用者数）：**17件**

※コロナクラスターにより2名オムツ着用となる

●導入後（オムツからリハパンとなり、トイレ誘導となった利用者数）：**7件**

※コロナ時のオムツ着用者は無事リハパンとなる

⇒自立支援を目的に積極的に活用することでリハビリ効果もあった（立位耐久性の改善）

導入の成果（移乗介助支援ロボットを使用してみた①）

【Hug】

- 立ち上がりや立位保持が難しい利用者のトイレ介助がとても楽になった
- Hugを使用することで車いすやトイレ誘導などの移乗場面において転倒・転落の心配が減った
- 腰の負担が減った
- 自分の負担も軽減でき、利用者様も楽そうな印象を受けた
- 今まで2人介助で対応していたのが1人介助で行えるようになった
- 移乗時に怖がったり、大声を出していた利用者がHug使用により、気分良く移乗ができるようになった
- オムツ対応の利用者でもHugを使用することでトイレ誘導ができるようになり、自立支援へ繋がった（リハビリ効果も副産物としてあるのではないかと）



導入の成果（移乗介助支援ロボットを使用してみた②）

【リフト】

- ・2人介助でタオル移乗していたのが、1人介助で行えるようになって楽になった
- ・腰の負担もなく、楽に行えるようになった
- ・2人介助での移乗（タオル移乗）は安全面で不安もあったが、リフトを使うことで安心かつ安全にできるようになった



導入の成果（インカムや介護ソフト・PCなどを導入してみて）

【インカム】

- ・外線電話から人づてで探さない分、だいぶ時間短縮となった
- ・ヘルプ要求がしやすくなった
- ・グループを活用することでその場で情報共有がしやすくなった



【介護ソフト・PC】

- ・数が増えることで順番を待たずに行え、他の業務ができるようになった
- ・紙ベースでの情報共有が減り、印刷する手間がはぶけた



手順5 改善活動を振り返ろう

●思うようにいった部分

- ・手順書のおかげで機器管理は特に問題がなかった
- ・簡易マニュアルがあることでOJT終了後も概ね迷わずに一人で操作することができた
- ・研修会や動画視聴での事前周知、各利用者ごとのOJTを徹底することで機器をスムーズに導入することができた
- ・職員、利用者とも安心かつ安全に移乗動作を行えるようになった（2人介助での対応が軽減した）
- ・オムツからトイレ誘導者が増え、自立支援へ繋がった
- ・インカムや介護ソフトが入ることで業務効率化が図れた
- ・LIFEの取得に繋がった

●いかなかった部分

- ・簡易マニュアル通りにいかない利用者が数名おり、対応に困る場面が時折みられた
- ・移乗介助支援ロボットに慣れた時期にのひやり・はつとが1件でてしまった
- ・インカムの使用伝達が上手くいかず、職員が慣れるまでに時間がかかった（装着状況にまだムラがある）

手順6 実行計画を練りなおそう

・簡易マニュアル通りにいかない利用者が数名おり、対応に困る場面が時折みられた
⇒**使用場面の見直しとして利用者の状態や状況に応じたOJTを適宜実施**

・移乗介助支援ロボットに慣れた時期にのひやり・はつとが1件でてしまった
⇒**上記のひやり・はつとについては多職種で対応策の検討。その後、各フロアにてひやり・はつと経緯の及び対応策の周知**

・インカムの使用伝達が上手くいかず、職員が慣れるまでに時間がかかった（装着状況にまだムラがある）
⇒**各フロアの朝礼時にインカム装着の呼びかけ（インカム装着者の明確化）**

改善活動の振り返り、実行計画の練りなおしで苦労した点・工夫した点



R 6/ 1/23	00:00	リハビリ ビリ	Hug使用時、両手を離してしまうことがあり、落下のリスクがみられています。必ず以下のことを意識しながら行うようお願いします。①たすわりの際に（できれば立位時）腰を支えられるよう手を添えておく。②Hugをし	<input checked="" type="checkbox"/> ケース <input checked="" type="checkbox"/> 申し送り
-----------	-------	------------	--	---



2階多床ユニット出勤表	
	インカム装着者
早番	<input type="text"/>
	インカム装着者
日勤	<input type="text"/>
	インカム装着者
遅番	<input type="text"/>
夜勤	<input type="text"/>
明け	<input type="text"/>
休み	<input type="text"/>

- 使用場面の見直しとして利用者の状態や状況に応じたOJTを適宜実施
⇒ 既存の設定で対応が難しい利用者は+αで工夫することで対応することができた
- ひやり・はっについては多職種で対応策の検討後、各フロアにてひやり・はっと経緯の及び対応策の周知
⇒ 各フロア朝礼時での周知に加え、ケース記録や連絡ノートも併用することで周知を徹底することができた
- インカム装着者の呼びかけ
⇒ 呼びかけでは定着が薄かったため装着者を勤務体制に合わせ明確化することで定着率がUPした



HEALTHCARE
Implementation

まとめ

- 移乗介助支援ロボットを導入することで、職員・利用者ともに移乗介助における身体的・心理的な不安軽減となった。また、安全性の担保や生産性の向上にも繋がった
- インカムや介護ソフト・PCの導入により、人探し作業や情報共有・ペーパーレス化などの業務効率化が図れた
- しかし、各フロアや個人において使用頻度にまだ差が生じていたり、新人・中途職員への指導方法含め、モデル事業終了後における運用・継続方法を検討していく必要がある
- 介護現場において移乗介助における「腰痛」や「転倒・転落」は切っても切れない事象なので、引き続き、移乗介助支援ロボットを有効活用し、『ノーリフトケア』推進施設を担えるよう努めていきたい

理事長（施設長）のコメント

当施設は、今回の事業への参加をきっかけに、先進的なテクノロジーを導入することができました。この導入は、職員の身体的および精神的負担を軽減し、同時に働きやすい職場環境を実現するものだと確信しています。また、今回の取り組みを通じて、プロジェクトに関わったメンバー全員が、多職種間での協力と共通の目標達成のためのチームワークの重要性を実感できたと考えています。この貴重な経験を日々の業務に活かし、さらなる飛躍のきっかけとすることを期待しています。

今後も、職員が働きやすい職場環境を作り、利用者様が快適に過ごせる施設を目指して、一丸となって取り組んでいきましょう。



ご清聴ありがとうございました



医療法人 健栄会 / 介護老人保健施設

リハビリケアセンター

フルリール甲府



NTT Data

株式会社 NTTデータ 経営研究所



医療法人 健栄会 / 介護老人保健施設

リハビリケアセンター

フルルール甲府



このロゴは、株式会社NTTデータ経営研究所
先端技術戦略ユニット HealthCare Implementationグループにおいて、
介護現場へのご支援を行う際に使用しています。
グループのビジョン「ヘルスケア・福祉を子どもたちの憧れの職業にする」を達成するため、
「人々の生活を支える縁の下の力持ち」となる私たちの存在をイメージしています。